様式第３号(第１２条関係)

会　　議　　録

会　議　の　名　称	令和４年度第４回吉川市廃棄物減量等推進審議会
開　催　日　時	令和５年１月１８日(水)　午後２時００分から 午後３時３０分まで
開　催　場　所	吉川市役所　３０１・３０２会議室
出席委員(者)氏名	松井美枝子委員、池上雅子委員、長谷隆仁委員、 中村博明委員、五十嵐惠千子委員、長谷川健一委員
欠席委員(者)氏名	深堀和香子委員、附田健志委員、生田貴之委員、田島三枝子委員
担当課職員職氏名	環境課資源化推進係長　山崎　徹 環境課資源化推進係主事　岩間　智希
会議次第と会議の公開又は非公開の別	１　開　　会 ２　議　　事 （１）ごみの量の推計 （２）数値目標 （３）計画素案 （４）その他 ３　閉　　会 すべて公開
非公開の理由(会議を非公開にした場合)	なし
傍　聴　者　の　数	０名
会議資料の名称	次第 資料１　将来推計 資料２　数値目標 資料３　答申までの流れ 計画素案
会議録の作成方法	□録音機器を使用した全文記録 ■録音機器を使用した要点記録 □要点記録
会議録確認指定者	長谷川健一委員、五十嵐惠千子委員
その他の必要事項	なし

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
１　開　会	――――――――――――――――《開　　会》――――――――――――――――
事務局	ただ今より、「第４回吉川市廃棄物減量等推進審議会」を開会する。
	――――――――――――――――《配付資料確認》――――――――――――――――
事務局	配布資料を確認。
	――――――――――――――――《会議の公開》――――――――――――――――
事務局	本日の会議は全て公開で行う。
	――――――――――――――――《定足数確認（会議の成立)》――――――――――――――――
事務局	吉川市廃棄物減量等推進審議会運営規則第５条第１項の規定により、会議開催の定足数である過半数に達しており、本日の審議会が成立していることを確認した。
	――――――――――――――――《議事審議》――――――――――――――――
	――――――――――――――――《署名委員の指名》――――――――――――――――
松井会長	会議録の署名委員に、長谷川委員と五十嵐委員の二人を指名。
	（１）ごみの量の推計
事務局	**事務局より資料１の説明** 【事務局資料説明（略)】
	質疑
長谷委員	現状推計について、令和２年度などコロナ禍の影響でごみの量が変動して、それまでの傾向と違う状況になっているので、将来推計においてその変化を含めるのか、一時的なものとして含めないのかで推計としてはだいぶ変わってくる。令和９年度の中間目標年度で、再度、ごみの推計はされるのか。
事務局	現状推計は、過去１０年間の実績で推計しているが、直近のコロナの影響を極力除いている。令和９年度の中間の時点でご

	みの量の推計を見直すかどうかは、現時点では決めていない。今後の推移を見ながら、見直しの時点であまりにも開きが大きい場合などには再度推計することもあり得るかもしれない。
池上委員	現状推計について、人口が増えていくことはあるが、ごみの量が減っていくような計画や数値ではなく、横ばいであることについて、どのように見通しを考えているか。
事務局	現状推計については、現状どおりに、過去10年間の増減の傾向どおりに向こう10年推移した場合にどのようになるか示したもので、数値目標の目標値が減量した場合の数字になっている。 また、人口は長期的に増えていくことになるが、全体のごみの量はほぼ横ばいになっており、1人1日あたりで見ると減ってきている傾向になっている。人口は増えても、現状どおりでも1人1日あたりの量は緩やかに減っていき、全体としては横ばいで変わらないとご理解いただければと思う。従って、さらに1人1日あたりのごみの量を減らさないと、全体のごみの量は減らないということになる。
	――――――――――――――――《議事審議》――――――――――――――――
	（２）数値目標
事務局	**事務局より資料２の説明** 【事務局説明（略）】
	質疑
長谷川委員	個人のごみの排出がどれくらいか調査したことがあるか。
事務局	1人1日あたりのごみの量については、個々人を調査したわけではなく、市全体のごみの量を人口で除して算出している。

長谷川委員	一般の方によく周知しないと、ごみの量は減らないと思う。何らかの形でピックアップして個々の家庭からどれくらいのごみの量を出しているか調べた方が具体的に数字が出るのではないか。
事務局	1人1日あたりのごみの量が何グラムといわれても、どういうごみの出し方をしたらこういう重さになって、何を減らせるのかというところが重要だと思う。啓発をする上で、実感がわきやすいような方法を考えて進めていく必要はあると思う。
長谷川委員	何らかの手立てを考えないと、令和3年度が1人1日あたり74gとなっているが、実際、74gがどのくらいかどのくらいの量か考えてしまう。
事務局	1人1日あたり74gというのは、令和3年度の最終処分量の数字で、実際に家庭から出されるごみの量は②の家庭系ごみが燃やすごみ、燃えないごみ、有害ごみなどで513ｇとなっている。最終処分量は、不燃残渣と呼ばれるリサイクルできずに最後に残ったごみや、焼却施設から出た灰のうちリサイクルできないものを埋立てした合計という形になっている。排出されたごみの量は、①の総排出量や②の家庭系ごみが該当する。
長谷委員	前回は、目標の案としては、1人1日あたりのごみ総排出量と、1人1日あたりの家庭系ごみ排出量と、再生利用率で、事業系ごみは参考のような形になっていた。今回は４つとしているが、1人1日あたりの家庭系ごみ排出量と再生利用率と事業系ごみの排出量を目標として定めてしまうと自ずと総排出量はおおよそ求められてしまうので、総排出量を目標として掲げるのはあま

	り意味のある設定ではない。最終処分量と同じように参考程度でいいのではないか。
事務局	今一度検討させていただきたい。総排出量は、家庭系ごみと事業系ごみの量に関連しているため、肝になる部分は家庭系と事業系ではあるため、検討させていただきたい。
長谷委員	前回のときは、総排出量と家庭系ごみと再生利用率を設定していて、結局それだと事業系ごみの量は決まったようなものになっている。4つは必要ないので、１つ削ってもいいのではと思う。
事務局	再度検討させていただく。
長谷委員	数値目標の表について、目標の国・埼玉県の列で、令和7年度とあって、吉川市の行とクロスして数値が入っており、正確な表現ではない。別の列で吉川市の令和7年度の下に数値が入るのが正確ではないかと思う。
事務局	修正する方向とする。
五十嵐委員	数値目標の1人1日あたりの総排出量を削除してもいいのではとの意見が出されたが、1日あたりの事業系ごみ排出量というのは事業系ごみの全体としての数字になっている。1人1日あたりの家庭系ごみ排出量と、全体でとらえた事業系ごみの排出量がリンクさせにくいというところがある。家庭系ごみと事業系ごみを1人あたりの市民がどれくらい排出しているかということを推定して出している1人1日あたり総排出量は非常に重要だと思う。

事務局	国県でも①の総排出量を令和7年度に850ｇという目標を実際に掲げていて、②の家庭系ごみの排出量の目標も国県で440ｇと掲げている。③が1人1日あたりとなっていないところで、数字としては単位が異なるので比較しづらいところがある。家庭系に対して事業系がどれくらい出ているのか見当がつきづらい形になっていることがあると思う。ごみの総排出量としては、家庭系ごみと事業系ごみに、その他に生活系の資源ごみと集団資源回収量が加わって総排出量となってくる。
五十嵐委員	家庭から出されるごみ以外に、事業系でも家庭系に近いようなごみがあって、それがひっくるまって家庭系だけではなく、1人1日あたりに排出されるごみの総合計が①の総排出量と解釈している。
事務局	①の総排出量に関しては家庭系のものも事業系のものも合わさった数字であり、基本的に吉川市内で発生したごみが1人1日あたりだとこういう量になるということであるため、そのとおりである。
五十嵐委員	実際に家庭から出されたごみの量である②の数字よりも大きい数字となるため、①の1人1日あたりの総排出量は重要だと感じている。
事務局	今一度考え方を整理したいと思う。
長谷委員	先ほどはいらないと言ったわけではない。雑駁にいうと、総排出量が880ｇ、家庭系ごみが520ｇ、そうすると、端折っているところがあるが、その差分が事業系ごみになる。家庭系ごみ

	を設定して、事業系ごみを設定すれば、自動的に総排出量が決まってしまう関係にあるので、あえて設定する必要がないという意味で参考程度でいいのではないかということである。逆に言えば、総排出量と家庭系ごみを決めればその差分が事業系と自動的に決まる。3つのうち2つが決まれば、残りの1つが決まってしまう関係にある。
事務局	ご指摘どおりであり、数字的に関連しているので、2つが分かれば、おおよその数字がわかるというものです。この計画書にも実績を載せてはいるが、毎年作成している統計の資料ではかなり細かい統計を載せている。いま議論になっている家庭系ごみ、事業系ごみ、総排出量だとかそれらの数字がすべてわかるような形で今後も統計資料としてわかりやすく作成していきたいと考えている。逆に言うと、この数字が分からないというようなことがない形で網羅して示していきたい。一方で、目標にする数値として、どこを重要視して、どこに焦点を絞るかが重要となってくる。①から③まで全て残すか、あるいはどれかを絞るかというところで少し検討させていただきたい。 基本的にごみ総排出量というのは家庭系と事業系のごみとリサイクルの分で計算できる形になる。個々の目標値を直接目標にするのではなくて、家庭系ごみの減量や資源化の取り組みをした結果が家庭系ごみの量に反映されて、事業系ごみについても排出抑制や様々な取り組みの結果、足し算としてごみの総排出量になるので、どちらかというと直接的な目標ではないが、大きな、市全体としてのごみ量の最終結果として目標ということの位置付けになるかと思う。直接的な進行管理というか、毎年のチェックという意味での指標にはならないが、大枠として市全体のごみの排出量の最終的な結果としての数字という意味合いが強いと思う。切り分けてもいいのではと思うが、国県も

	ごみ総排出量を掲げているので、明記していくことは必要ではないか。
池上委員	第4次基本計画は令和5年度から始まるが、実績が令和4年度がまだ終わっていないため、令和3年度の実績が記載されていると思われる。令和4年度の目標値を教えていただきたい。
事務局	②の家庭系ごみは目標の項目としては次期計画で初めて設けたもので、①の総排出量については、前計画では「総」がつかない「排出量」を項目に設定していたため、令和4年度の目標が記載されていない。
中村委員	事業系ごみというのは、あくまで東埼玉資源環境組合に入った分の重量か。例えば、リサイクル法に基づいて排出量が年間100t以上の方については、100tを80tに落とそうとということで行政の動きもあるが、そういうのは抜いた分で組合に入った分ということか。
事務局	大きく事業系ごみでカウントされているのは、東埼玉資源環境組合の第一工場の焼却施設に搬入された量と、不燃ごみで市の環境センターに搬入された量と、民間企業ではあまりないが公共施設の剪定枝や刈草を東埼玉資源環境組合の堆肥化施設に搬入された量が事業系ごみにカウントされている。
長谷委員	1日あたりの事業系ごみ排出量について、1人1日あたりではなく1日あたりにした理由を伺う。
事務局	総量で出しても、日あたりは365日で割っただけであるので、内容としては変わらない。

	人口と相関する場合は1人1日あたりで換算する場合もあるが、相関しない場合は総量で予測する。年単位で推計するよりかは日単位で、ある意味1人1日あたりと同じく、1日あたりに換算した数値で推計することが多く、原単位として1日あたりの量として表記する方が一般的である。目標としては、年間の数字も出るが、資料としては分かりやすい。 ――――――――――――――――《議事審議》―――――――――――――――― **（3）計画素案**
事務局	**事務局より計画素案の説明** 【事務局説明（略）】
長谷委員	質疑 28 ページのごみと資源の排出量の実績の中で、注として、表内の 1 人 1 日あたりの各ごみの量は、各ごみの量を年度末人口で割っているとあるが、表に人口を入れていただきたい。
事務局	人口の欄を設けることとしたい。
長谷委員	29ページ以降で、図表3-10など組合の構成市町の比較であるが、文の中では5市1町平均についてしか触れられていないので、5市1町平均だけを図表3-9に入れてしまって、各市町の分については計画の一番最後に資料という形にした方がすっきりする。
事務局	コメントでは触れていないが、5市1町の中での吉川市のごみの量がどれくらいなのか参考になればということで載せたいと考えていたところである。
長谷委員	それぞれの図表の中に吉川市の数字がグラフの中に書いてあ

	るが、年度によっては図表3-7や3-8と違っている。元のデータが違うからか。
事務局	図表3-7や3-8は、年度末の人口を使っており、当市が毎年作成している統計資料の数字である。30ページ以降は、国の一般廃棄物処理実態調査結果の数字で、人口はその年の10月1日現在で算出された数字になっている。そのため、1人1日あたりの数字が変わってしまっている。
長谷委員	図表3-7、3-8と同じ数字を使うか、もしくは、違うデータを使っているので変わることがあるということを但書を付けた方がいいのでは。
事務局	37ページの注釈において、1人1日あたりの人口は10月1日によるものというところと、図表3-9から3-22までは令和3年度の吉川市の数値は、毎年作成している統計資料である「吉川市清掃事業概要」から引用しているところで、断りを入れている。 27、28ページでは年度末人口であることを記載しているので、それを以ってデータが違うということを示している。 実績という部分と他市町村等との比較の部分とで、比較には同じ条件で作成したものでないと比較にならないため、2種類異なるデータを用いているというところである。
長谷委員	その辺が混乱しないように書いていただければと思う。
事務局	よりよい表記の仕方があれば配慮させていただく。
長谷委員	52ページ図表で、グラフの中に数字があるが、できれば集計表として、ごみの総排出量等の表を付けていただきたい。

事務局	この図表の詳細の数字について、表で記載を追加する方向で調整したい。
長谷委員	数値目標のところで、最終処分量のところで「目標推計」という言葉があるが、おそらくごみ総排出量、家庭系ごみ排出量、事業系ごみ排出量、再生利用率等の目標を設定された際に他のいろんな数値についてもどうなるか推計して計算されたものが目標推計だと思われるが、52ページと同じように、この目標を設定すると他の指標がこうなるという表を付けてもらってもいいのでは。
事務局	あまり細かい数字まで全て載せることは考えていない。
長谷委員	例えば、設定目標以外は結果としてその可能性があるという数字であると思う。
事務局	どういう取り組みを行えば、どのごみの量が変化するかということで推計している。目標を達成するために、何をどれくらい取り組まなければならないという積み重ねで、特に②の1人1日あたりの家庭系ごみ440ｇを達成するためにはというところで推計している。結果的に、最終処分量がこういう量になったということである。目標推計とここでは読んでいるが、別の言葉に置き換えられないかということでもあるが、数値目標と同じような記載の仕方にしている。
長谷委員	検討していただければと思うが、52ページの現状推計のグラフがあって、項目で数字があるだけだと、現状推計からどう変わっているのか見づらいところがある。

事務局	理想的なのは、52ページのグラフにもう少し細かい表を追加した形で、目標推計を同じ感じで並べるということか。
長谷委員	そのとおりである。
	――――――――――――――――《議事審議》――――――――――――――――
	（4）その他 **事務局より資料３の説明** 【事務局説明（略）】
松井会長	質疑 パブリック・コメントは、吉川市民の方も、吉川市外の方も意見を出せるか。
事務局	吉川市民でなくても、市内在勤・在学の方なども意見を出すことができる。
長谷委員	全体的なこととして、家庭系ごみの目標値として、440ｇという目標は困難ではあるが不可能ではないと思う。その上で、一つ重要なのは、ごみの実態を調査しながら進めていただきたい。廃プラでも組成の割合のうちどれくらいリサイクルできるのか、分別区分により何をどれくらい減らせるのかは実際に測定していかないとわからないところがある。食品ロスでも、実際に調査すれば市でどれくらい出るかわかる。できれば、可能な限り測定や調査をしながら進めていただきたい。
事務局	1人1日あたり家庭系ごみ排出量440gというのはかなり高い目標ではあると思う。可燃ごみを組合で処理しているので、市独

	自で動きにくい部分はある。調査も現在より出来たらよいと思う。 ――――――――――――≪議事の終了≫――――――――――――
３　閉会 事務局	――――――――――――――――《閉会》――――――――――――――― 以上で本日の審議会の内容はすべて終了した。これをもって、「第４回吉川市廃棄物減量等推進審議会」を閉会する。

以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和５年　２月　１日

署名委員　　署名委員